

審議会等の会議結果報告書

【担当課】こども課

会議の名称	第4回茅野市こども・家庭応援会議		
開催日時	令和6年2月6日(火) 午後7時00分～午後8時30分		
開催場所	茅野市役所 議会棟大会議室		
出席者(名簿順)	<p>【委員出席】 市川純章委員、両角薫委員、岩下ふみ子委員、竹内ひかり委員、大作公明委員、小坂秀王委員、湯田坂光祐委員、小倉誠司委員、石井聖文委員(代理)、宮原渉委員(代理)、伊藤美奈委員、北澤孝郎委員、前島敦子委員、味澤広明委員</p> <p>【市側出席】 山田教育長、平澤健康福祉部長、守屋地域福祉課長、小穴範子健康づくり推進課長、阿部こども課長、笹岡幼児教育課長、渡辺学校教育課長、小平こども係長、白鳥こども・家庭相談係長、飯島こども係こども育成担当、高橋こども係主査、矢崎こども係主事</p>		
欠席者(委員のみ)	戸川榮司委員、北澤いずみ委員、渡辺修委員、原田正樹委員、山口圭子委員、小口直喜委員、		
公開・非公開の別	公開	・非公開	傍観者の数
			0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
こども課長	司会進行		
副会長	1 開会		
教育長	2 教育長あいさつ 皆さんこんばんは。暦の上では立春で、一歩春に近づく時期ではあるが、昨日に引き続き、今朝早朝の雪かき大変であったと思われる。 本日は今年度最後の会議となる。第3次どんぐりプランの見直しということで見直し専門委員会を含めると計8回会議を開催した。多数回にわたり出席いただき、本当にありがとうございます。これまで庁内関係部署での確認作業と並行し、皆様に協議を行っていただいた中間見直しについて、どんぐりプラン中間見直し結果(案)として本日まとめていただきたい。それぞれのお立場から子育て環境や課題、子どもを支えるための活動等、様々な視点でのご意見を頂戴したいと考えているので、どうぞよろしくお願いいたします。		
事務局 会長	3 会議事項 (1)審議会等の会議の公開の確認 前回同様①本日の会議を公開とすること、②会議録の公表を市ホームページでおこなうこと、③公開する議事録の発言委員の氏名を「委員」として記載して公表してよいかを委員へ確認 承認 (2)第3次茅野市こども・家庭応援計画中間見直し結果(案)について		

こども課長	【資料1】【資料2】により、前回会議からの修正点を説明。
会長	<p>本日の会議の一番の議題となる。事務局の説明を聞いて、意見がうまく反映されていないなど、意見や質問があればお願いしたい。</p> <p>また、修正事項が出た場合は、本日この場で修正し、本会議で最終(案)として確定させることとなる。</p> <p>私としては、議論を重ねてきた中で、今回の結果に足りない部分もあるように思うが、事務局からもあるように後期期間が4年であること、次期計画のプランニングが間もなく始まることを考慮すると、資料編にあるように、今回の見直しにおいて、重点検討項目の洗い出しができたことがよかったと感じる。次期計画への持ち越し事項が明確になったと。</p> <p>その点で、次期のスタートのためにも、重点事項が他に漏れているといった意見があればお願いしたい。</p> <p>私が少し手薄になってしまったと思うところは、子どもの声を聴くについて、弱者というか、言いたいことを言うことができない子どもの声をどうやって聴いていくかという部分。今回の見直しにはすべて反映はさせられないと思うので、次期への課題として議事録等にも残していただければ。</p>
前島委員	<p>資料編の重点取組項目一覧の、子どもの社会性を育む項目について、あいさつを削除したことが残念である。今回の見直しは、アンケートの対象年齢にもあるように、小学校高学年から高校生に重点を置いているように感じるが、どんぐりプランが0から18歳を対象としている。低年齢の子どもにとって目を合わせておはようと言うあいさつは非常に重要。保育園ではあいさつを大事にしているの、これが社会性を育む項目の中に入っていてほしいと思った。</p>
会長	<p>あいさつを否定しているわけではなく、形ばかりのあいさつ運動を強制することは違うのではないかという議論があったり、具体的なやることをここであげる必要がないのではないという議論があったりする中で削除となった。認知発達というか、小さい子があいさつをまねて学んでいくこともあるので、あいさつ自体は私も大切だと思っている。</p> <p>他に何かあるか。</p> <p>ないようであれば、拍手をもって確定としたい。</p>
	委員拍手
	では、修正案を反映ということでやっていただきたい。
会長	<p>(3)その他</p> <p>本日が最終回となるので、皆さんから情報共有、あるいは本会議で話題にしたいことがあれば発言をお願いしたい。</p> <p>まずは、私、どんぐりネットワーク茅野から。</p> <p>どんぐりネットワーク茅野では、中間見直し結果の資料編にも入れていただいているが、子育てアンケートを実施した。このことについて、昨年末に、市長に説明する機会を設けて、どんぐりネットワーク茅野の正副代表幹事と、教育長、こども部長にこの活動と内容の報告、意見交換を行った。市長からは、市民活動として、いろんな意見を集める活動を非常に高く評価していただき、続けて欲しいという話になった。</p>

	<p>また、アンケートをしている中で、学校再編の話題というのが出てきた。これについて、市として展開はあるだろうが、どんぐりネットワーク茅野としては、市民の活動として、今やるべきこととして、新年度の活動として取り組もうかと考えている。保護者の声などをどんどん拾って、みんなで考えて行くことができれば。</p> <p>また、関連した話題として、高校再編の何か会合で、県の教育委員会が新しい高校の統合する時に、教育委員会で決めたことをやるのではなく、時間をかけて地域の人達の声を反映させたカリキュラムや学校の魅力づくりをしたいと言われていたのが非常に印象的であった。その中で、保護者やPTA代表、OB会などの発言で、子どもたちが望むもの、子どもたちの声を反映させてという意見が非常に多かった。生徒会長が来て発言するなどもあり、いいことだと思う反面、子どもに丸投げしているような気もした。やはり、教育は社会や大人が必要だと思うことをやっているという面もあるので、すべて子どもの言う通りというのも違うのではない。言うことをすべてきくのではなく、子どもが言うことを聴いて、理解して考えることを意識しなければならない。茅野市も子どもの声を聴きつつ、親のいろんなことを聴きながら議論していけるような、いろんな人がいろんなことを考えられるようなことができればいいと思っている</p>
副会長	<p>読りーむinちのから</p> <p>読りーむinちのは今年で発足してから25周年になる。これは、地道な努力や行政、諸先輩方のおかげと思って頑張っている。</p> <p>当初からメンバーが半数以下となり、新規加入者もなかなかいないという存続が難しいところに来ているが、ファーストブック事業が始まって24年経っており、初めの方はもう24歳になっている。そろそろその世代の子どもがファーストブックをもらうことになり、一つのサイクルができてきたのでは。</p> <p>私たちは心と言葉を育てる読書活動の推進しており、これは目に見えて、数字で表せるものではないが、子どもたちの生きる力が、読書によって育まれていけばと思い、地道だが活動している。児童読書活動を推進しているまちだということ、少し皆さんの心にとめていただきたいと思っている。</p>
委員	<p>食生活改善推進協議会から</p> <p>食改では、子どもや親御さんとの繋がりは、離乳食のお手伝いや、高校生と料理を一緒に調理して食べるというようなことがある。これまで、コロナでできていなかったが、今年は久しぶりに高校生の食育活動ができて大変うれしく思っている。</p>
委員	<p>スポーツ協会から</p> <p>スポーツ協会の加盟団体は、30数団体の競技がある。12月半ばくらいに、ハンドボール協会の方にお誘いいただいて、4年ぶりの開催となる大会を見学してきた。</p> <p>ハンドボール協会は設立してまだ新しいのだが、高校生、中学生、一般含め男子が6チーム、女子が2チームエントリーされて競技をしていた。これだけの人たちが集まってできることがいいなど思った。中学生が一般の試合を見ることはとても勉強になる。このような大会ができるというのは、やはり協会の方や、携わっている方が一生懸命努力されているからなのだと感じた。何か参考になればということでこの場で話をさせていただいた。</p>

委員	<p>茅野市こども会育成連絡協議会から</p> <p>今回見直しの検討を行った中で一番インパクトがあったのは、重点取組項目の一番上にある子どもの声を聴くということ。今回のアンケートのとり方については次回への検討の余地があるが、短期間で実施した中でも、いろいろな回答があった。やはり、子どもの声を聴くことは重要だと思った。</p> <p>その中で、子どもの声を聴くという言い方をすると、大人対子ども、大人が上にいて子ども庇護するという印象を受ける。子どもといっても、大人がしっかり保護しなければいけない年齢や、小学校高学年、中学生、高校生と年齢によって焦点を当てるところが変わってくる。子ども会育成会の中でも常々感じることだが、例えばジュニアリーダーの活動などは、小学校高学年から始まって、中学生、高校生が面倒見ていく中で子どもたちの中での社会性が育まれていく。</p> <p>今、子どもの教育年齢というのが上がってきている。大学、大学院まで行くと24歳くらいまでは学生であり、社会性を育むことがなかなか難しいのでは。昔は子どもでも働いていて、社会性を早くから身に付け、大人と同等まではいかないかもしれないが「一緒に」働いていた。</p> <p>そう考えると、目指すべきは「大人が、子どもと一緒に社会を形成している」のだという意識をもつということ。子ども会育成会でいうと、子ども会育成会は子どもを育成するのではなく、子どもたちが自立して自分たちで子ども会を作っていけるように大人がサポートするものだということ。大人の立ち位置というのは、子どもの意見を聴いて「あげる」のではないということが今回やってみてますます明らかになったように感じた。</p>
委員	<p>主任児童委員会から</p> <p>主任児童委員の認知がなかなか広まらないところではあるが、活動の大きな部分は子どもや子どもをもつ家庭の見守りだと思う。</p> <p>今年度はコロナが収まってきて、保育園や学校、こども館へ行く機会がずいぶん増え、子どもたちと接する機会も増え委員の意欲も高まってきている。その中で、こども館の役割について。こども館の消毒ボランティアがコロナの5類移行で終わりとなった。すると、ボランティアに行っていた方たちからは寂しいという声があった。このように、こども館というのは、子どもたちの居場所というだけでなく、シニアが子どもたちと接することのできる場所としての役割があるのではないか。これは双方にとってメリットがある。</p> <p>こども館が、子どもの居場所づくりという観点だけでなく、子どもと様々な年代の人たちの交流の場になっていければいいと思った。老人クラブが消滅しているところもある中で、こども館で子どもたちと交流することで、新たにシニアの方たちがいきいきと生活できるようになればと思った。</p>
委員	<p>保育所保護者会連合会から</p> <p>この会議への参加は2回目となるが、皆さんが時間をかけてやっていただいたこのどんぐりプランの内容はとてもいいと拝見している。そして、こういったものが、学校の先生方など教育現場にもっと周知されてほしいと思った。</p> <p>というのも、先日の入学説明会時に小学校の先生が発達特性など別の言い方もある中でストレートに発達障害という言葉を使っていて、そのようなお子さんをもつ保護者から、少し悲しい気持ちになったという話を聞いた。昨今先生方の業務改善ということもうたわれていると思うが、そういったことをもっと現場に周知していただきながら、子どもたちの明るい未来のために、これも頑張</p>

	<p>いる。そういうものを私たち大人が子どもたちと一緒に作っていく、一緒に活動しながら「あなたはこの会の大切な一員である」ということをベースとして見直していかなければならないと感じた。そして、それを学んだ子どもたちが、例えばコミュニティスクールを中心とした地域づくりや、もともと地域のある社会教育活動で、大人の方にサポートしてもらいながら、学んだことを生かす機会となれば。コロナの扱いが変わったことで、そういう機会が復活してくるのでお互いが苦しくならない程度にやっていきたいと思った。</p> <p>なお、コミュニティスクールに関して、各小中学校で、この時期1年間のまとめや振り返りということを実施すると思うので、学校から発信される、振り返りを見ていただき、ぜひ13小中学校へまたお力添えいただければと思っている。</p>
委員	<p>園長会から</p> <p>どんぐりプランの、たくましく優しい夢のある子どもを目指してということで、大人も子どもも皆関わって、子どもたちを育てていく。本当にこれだけ熱心にして茅野市の子どもたちのことを考えてくれている方々がいるということ、とても心強く思っている。</p> <p>保育園としては、平等に子どもたちがやりたいことを考える場として、子どもたちが主体的になって考えた遊びを取り入れて、また皆がそれを楽しんでいる。保育園の中にもやはり社会性があり、年長児にあこがれて年中児が自分のおもちゃを小さい子に譲るなどしている。そのような気持ちが育っているので、これを大切にしながら、保育園として子どもたちの成長を育てていきたい。</p>
委員	<p>事業者代表から</p> <p>事業者としてこの会に参加させていただき、私個人としても子を持つ親としていろんなことを勉強させていただいた。</p> <p>この会に参加するまで、どんぐりプランについて存在すら知らなかったが、たくさんの方、関係者の方が考えられて、今まで展開されてきており、その中で育った子どもが、今成人して企業に入社してくる子たちが、まさにその中で育ってきた世代になってきている。そして、またこれがさらにより良いものにブラッシュアップされて、展開されているものを受けた子どもたちに、地元の企業に入ってきてもらえるというようなことが、改めてよくわかったと思う。</p> <p>また、事業者としては、企業には企業理念というものがある。当社は、創業からの思いで「世の中の役に立つものをつくる」ということで、ずっとやってきている。世の中の役に立つ、世の中のためになる活動ということで、当社も食料支援というものを昔からやっている。社員の家庭で余剰となったものについて、社会福祉協議会さんを通じて提供させていただいている。社協さんに持っていくと非常に感謝され、協力させてもらっている社員の気持ちを届けることができていると感じており、会社として続けていきたいと思っている。</p> <p>ここで社会人となる若い世代の方に、直接的には知らないかもしれないが、そういうものを受けて大事に育てられて、今社会人になっているということをお話できればいいと思う。また、そういう風に育った子どもたちというのは、会社の理念に共感をもっている部分がある。本当に簡単なことだが、世の中の役に立つというようなことに共感できるというのは、こういう教育を受けてきているからなのかと、改めてうれしい気持ちがある。そして、受け入れる側、事業者として、このような皆さんの活動が活きるようにしていきたいと個人的に思った。</p>

会長	<p>どうもありがとうございました。多角的なご意見で非常に示唆的で、私自身の活動にも皆様の活動にも参考になる情報提供ができたのではないかと感じました。</p> <p>これで会議事項、他に議論すべき問題がなければ、事務局に戻します。</p> <p>——なし</p>
こども課長	<p>委員の皆様におかれましては、本当に貴重なご意見をいただいた。行政だけでは視野が狭まってしまう部分があるが、皆様のご意見を聴きながら、広い視野を持ち今後取り組むことが必要だと改めて感じた。</p>
事務局	<p>4 その他</p> <p>・中間見直しの今後のスケジュールについて</p> <p>本日お示した中間見直し結果(案)については、庁内及び議会への報告をして、その後市長決裁を受けて最終確定となる。確定後は、冊子化せず、市ホームページで公開していく予定。</p>
こども係長	<p>・子どもの声を聴くアンケートについて</p> <p>追加補足。子どもの声を聴くアンケートの自由記載部分について委員の皆様にご紹介させていただいていたが、これを市役所の企画課との相談の結果、第6次総合計画の参考資料として活用させていただければと思っている。自由記載のうち、まちづくりや市の未来を語っているような意見などを、企画課、関係各課の方に提供させていただき、現在作成中の総合計画への資料とさせていただく。この意見が直接総合計画へ反映されるということはないという可能性もあるが、総合計画、今後の5年間の動きを考えていく職員がその過程の中で参考資料として、取り入れていく1つのきっかけになっていくかと思う。有効的な活用をさせていただきたいと思うので、ご報告をさせていただく。</p>
こども課長	<p>・茅野市こども家庭センター「育ちあいの」の設置について</p> <p>【資料3】に基づき、設置の趣旨、組織・職員体制、業務内容、スケジュール等を説明</p> <p>——質問等なし</p>
こども・相談係長	<p>・どんぐり手帳の改編について</p> <p>【資料4】により、配布対象、配布方法、子育てハンドブック等について説明</p> <p>——質問等なし</p>
事務局	<p>・事務連絡</p> <p>事務局から、今年度の報酬支払は1年分をまとめてこの後支払い予定であること、来年度のこども・家庭応援会議の委員選出について、各団体の長へ依頼中であることを連絡。</p> <p>その他、委員から何かあるか。</p> <p>——なし</p>

副会長	6 閉会
-----	------